

## 令和元年度第2回香芝市都市経営市民会議 議事要旨

開催日時	令和元年11月19日(木) 午前10時00分～12時00分
場所	香芝市役所 本庁舎 3階 第1会議室
出席者	中川会長、平越副会長、芦高委員、石原田委員、井上委員、植田委員、小川委員、沖本委員、北川委員、小西委員、清水委員、吉村委員(計12名)
欠席者	粕井委員、中村委員、萩原委員(計3名)
事務局	企画部：堀本部長、遠藤理事 企画政策課：足立課長、宮崎主幹、吉谷主査、佐々木主任
議題	1. 「香芝市まち・ひと・しごと創生総合戦略」の計画期間延長について 2. 市民アンケートの結果について

### 各議題について

#### 1. 「香芝市まち・ひと・しごと創生総合戦略」の計画期間延長について

「香芝市まち・ひと・しごと創生総合戦略」の計画期間延長について、計画期間を1年延長すること及び延長後のKPIにつき説明し、了承を得た。

#### <意見及び質疑>

- 総合計画の中に総合戦略が組み込まれるということで、位置づけとしては別々だが一体化するというのか。一本化されるが2つあるということか。  
→ (事務局) 2つの意味合いをもった一冊の計画書ということである。  
: 総合戦略と総合計画とあるが、総合計画の中に総合戦略が組み込まれているのか。  
→ (事務局) 総合計画の中の一部が、戦略部分というイメージである。政策と施策の目標は共通のものになるが、地方創生交付金事業の実施においては総合戦略という位置づけが必要になってくるので、そういう意味だと理解いただきたい。
- 戦略という言葉が少し誤解を生みやすい。計画の実現のための戦略というように思ってしまう。
- 事務局説明の通り総合戦略を1年延長し、これに伴う令和2年度のKPIを設定することに、ご了承をいただけるか。  
→ 異論なし

#### 2. 市民アンケートの結果について及び中学生アンケート(結果速報)

#### <意見及び質疑>

- 市民意識調査(分析)中、「◆総合評価に対する貢献度分析」の中にある「貢献度が高く満足度が低い施策は、総合評価の満足度を高めやすい」というところの説明をもう少し詳しくお願いしたい。  
→ (事務局) 縦軸を貢献度として表しているが、個別の施策の満足度と総合評価の満足度との相関係数を算出し、それを貢献度としている。貢献度が高ければ高いほど総合評価の満足度に影響しやすい。今は満足度が低いと答えられている施策でも貢献度が高い場合には、その満足度をあげれば他の施策の満足度をあげるよりも総合評価があがりやすいというような見方になる。
- 市民アンケートの結果速報中、問11で「意見交換する機会をつくるのが大事だ」という回答が多いが、次の問12で自分が参加したいかと問うと、参加したくないという人も増えている、わからないという人も増えている。「わからない」とか「不明・無回答」と

かは他の設問にも出てくるが、回答者の就業状況や年齢層で、参加したいけど参加できない具体的な事情みたいなものが見えてくる。もう一つ、無回答とか不明というのは、そもそも興味がないのか、興味があるけど参加できないのかという分析をしてもらいたい。もし興味がないのであれば興味を持つような取り組みというのがすごく大事になってくると思う。

- 不明とか無回答とかというのは分析で大変重要である。その内容を分析しないと、重要な政策を検討する上でのファクターが隠れている可能性がある。問 12、問 14 の「わからない」もそうだ。

- 中学生アンケートについて、この中学生アンケートは何を目的として実施したのか、市民アンケートと同じ位置づけで実施したのか。

→ (事務局) 市民アンケートとは同じ位置づけではなく、質問の数もかなり少ない。授業等クラスの中で少し時間をもらって先生に実施していただいたもの。(市民アンケートの) 16 才以上と合わせて、中学生の視点というものにズレがないのかどうかというところを確認する追加の参考という位置づけ。前回(平成 27 年)も同様のアンケートを実施している。

: 30 年後、40 年後、私たちに替わってここに座っている人たちのアンケートなので、これこそすごく大事なもの。今の大人と合っているかというぐらいで扱うのはすごく勿体ない。

→ (事務局) 委員の仰るとおり 30 年後、40 年後の人たちにも意見を聞くべきというような発想から実施したものであり、結果を活用していきたい。

### 3. その他

資料「第5次総合計画策定スケジュール検討チーム会議・部長級会議・都市経営市民会議ー」について、説明。

#### <全体総括>

- 庁内に若手の 20 代、30 代、40 代のワーキングチームをつくっていくことはいいことだと思う。総合計画、公共施設の総合管理計画、レベルは違うがやはりまちの未来を決める非常に重要な計画で、財政にかかわってくる。この2つは住民の意見を聞くというのも、もちろん大前提であるが、庁内でも若手の 20 代、30 代、40 代そして女性も含めてメンバーに入れて協議してほしい。

- 住民の方のアンケートというのはどうしても目の前にある課題を何とかしたいというようなところに集中することが多いと思う。具体的には病院をどうにかしてほしい、道路をどうにかしてほしいというような喫緊の課題が満足度とか重要度にも反映されているように感じた。まちづくりというのは、10 年後 100 年後どうありたいかという大きなビジョンも要ると思うので、その中でこれをいかに活用していくかというところが極めて大切だと思う。それと、国から言われたことなどを事務的にこなすだけに陥ってしまうのではなくて、わくわくしていける部分も大切にしていきたいと思う。

- 市民アンケートの結果速報を見せていただいて、「後に回してもやむを得ないと思う施策」の中に、文化的な施策がほとんど入っている現状だが、そのあたりのところを逆に魅力とした内容の施策をつくっていただけたらと思う。

- 実際に香芝の施設で子育てをしている者としては、子育てアンケート結果はやはりその通りだと思った。今回分析してまとめていただいているので、主婦の意見も汲んだ施策をつくってほしい。

- 防災活動の立場から。コミュニケーションをとりたいとか、子育てに力を入れたいとかの

課題に対して、防災教育からも寄与できる部分はある。コミュニティースクールなどを他の課とも連携しながらやっていくことで、先生たちでは難しいところを地域の人たちが関わって実施し、一緒にいろんな防災体験を子どもたちとする、それだけでもコミュニケーションがとれたり、子育ても一緒に地域の人たちとできるような環境づくりができたりする。他のいろんな課との連携で、出てきた課題を別の形で達成できることはあると思う。

- アンケート結果を踏まえて、行政との大きなずれはなかったのか、意外にいいようにとっていたらたんだとか、逆にいえば意外とダメだったんだとか、そういう点があればお聞かせいただきたい。

→ (事務局) まず病院については、香芝生喜病院ができてひと安心というところであったが、前回調査よりも格段に下がってはいるものの、まだ医療ニーズというものは高く、十分には満足されていないと感じている。もう一つが自由意見などでも目につくが、道路・インフラ分野である。駅前であったり、狹隘道路であったり、道路に対する要望が国道も含めて非常に多い中で、実際の国の動きとしては、中々予算がつかない縮小傾向というところがジレンマとしてある。

: このままずっと住み続けたいという方のパーセンテージが増えていることに甘えることなく、しっかりやってもらいたい。予想としては人口が増え続けると香芝市は思っていたけれども、現実としては減少傾向に落ちてきている。どこの自治体もみんな必死で、人口の取り合いになってくる。

- 香芝市の一番のストロングポイントは、人口が減っていないこと。その人口維持がやはり喫緊の課題なので、今後の政策の一つの大きな柱かと思う。アンケートを受けて、今の香芝市民だけにフォーカスするのではなくて、対外的に魅力のある、「香芝市がいいな」と、他から来てもらえるような、そういうことを意識した戦略をつくってほしい。
- 先ほどの繰り返しになるが、アンケートの「わからない」「その他」「不明・無回答」ここを重要に考えてほしい。

- アンケートの回収率、36.25%だが、これには満足されているか。目標回収率 60%で、前回は 41.9%だから、回収率を何とかもう少し高める方法を考えないといけない。私にもよくアンケート調査がくるが、アンケートだから無視してもいいという感覚もあり、出すのを忘れることがあるので、もう一押しがあればもっと回収率が上がるのではないかと。目標に近い回収率が欲しかった。

もう一点、総合戦略の進捗だが、実績と目標との数字の乖離があるところがあるので、目標設定が厳し過ぎるのではないかと。逆に目標を既にオーバーしているところも少しある。目標設定とかけ離れているところがあるので、その辺り、もう少し再考する必要があるのではないかと。

- 個人的には、このアンケートを見て少し危機感をもっている。先ほどのご指摘のように、アンケート結果回収率がこれだけ低いというのは良くない。4割弱の人たちの意見で政策を決めるというのは危ない。そうすると回答を出さない人たちの意向は、どう把握するかという問題があるが、このあたりについては別の分析をしないとけない。それから、重要度と満足度の調査は一般的だが、これも必ずしも決定打にはならない。潜在意識までは掴みきれない、そういうことも踏まえて、次の総合計画は少し慎重に奥行きが深い2段3段構えの、例えば福祉と教育と防災などの連動性を意識したコンプレックス（複合的な政策）を考えなければいけない。今までのような、縦割りですべてが実施する計画ではなく、互いに助け合いするような部局の活動の仕方を意図的に設計しないと、これからやっていけない時代がくるかもしれないというのが、一つ気になった。それから、香芝は比較的若いまちである。状況の似ている他市ではもっとシビックプライドが高く、格の高いま

ちでありたいという意識が強いが、香芝はそれがあまりない。道路整備、医療機関、子育てのしやすさ、つまり使い勝手のいい町を市民は求めている。言葉は悪いが、若い町であるがために、市民の意識もまだ薄い。

中学生アンケートで市役所の職員と対話があったら、参加するという回答が圧倒的に少ない。青年予備軍に対するアクセスをもっとしないとイケない。小中学生に対して、香芝ってこんなまちだよ、素敵な町だよ、というメッセージを送るということをもっとやってくべきだったと思う。次の計画は少し真剣に危機意識をもって取り組んだほうがいい。

人口の伸びが止まって急激な高齢化がやってくる、そうすると瞬時にして財政悪化がやってくる。香芝はまだそこまでいってないけれど、政策に対する危機感が市民も薄いというのが気になる。これまでの政策にも弱点があるのかもしれない。ニュータウン型で地価もどンドン上がってきて、人口も増えてきて、子育てしやすい町を目指していたらいいかと思っていたらダメだ。そういう意味ではもう少し気を引き締めてもらいたいと思っている。

#### 4. その他

連絡事項を伝達

以上